

眼科検査のあれこれ

～眼科コラム～

聖隷沼津病院 眼科検査室

静的視野検査について

緑内障、網膜色素変性、頭蓋内疾患など視野検査の対象は多岐にわたり、視野検査にも種類があります。
今回はその中でも緑内障の視野検査に多く使われている、静的視野検査について解説していきます。

静的視野検査とは？

簡単に説明しますと、中心 30 度内の決められた場所に出てきた光が、どの程度の明るさまで認識できるかを調べる検査です。検査時間は通常 5 分程度です。

静的視野検査では、軽度な感度の低下を捉えることもでき、結果が数値化されるため、経過観察に適しています。
しかし、中心 30 度内の検査となる為、視野全体の把握をすることが出来ません。
視野全体を把握する為には、動的視野検査が必要となります。

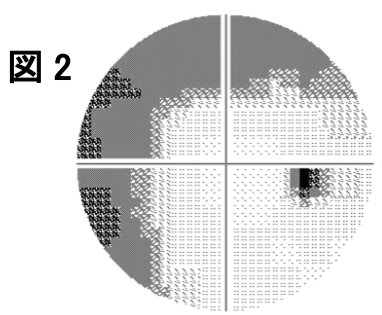
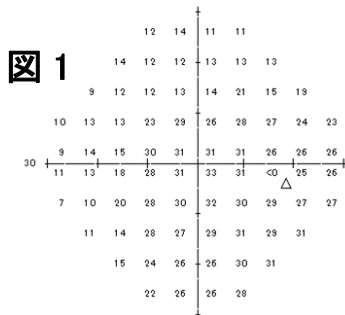


図 1 と図 2 は静的視野検査の結果のサンプルです。

図 1 では、被験者が認識することが出来た光の明るさを数値として表示しています。

図 2 では、結果をもとに、グレートーンシンボルという方法で、視野の全体像を大まかに把握しやすく表示しています。
黒やグレーで表示されている部分は、視野の欠損や感度の低下をあらわしています。

中心 30 度ってどれくらい？

中心 30 度内は中心視野といい、モノの動き・大きさ・色などがはっきりと判別することができます。
中でも 3 度以内は識別視野とよばれ、解像度がよく、通常文字を読む際には、この 3 度以内で見えています。

図 3 は 30 センチの距離で本を読んだときにイメージです。
赤丸が中心 10 度、青丸が中心 5 度、黒丸が中心 3 度の視野です。
中心 3 度では文字がはっきりと見えますが、5 度、10 度になると段々と文字がぼやけて見えています。

中心視野に障害がおきると、はっきり見えていた部分以外の視野をうまく使って生活を行わなければならないため、
読書や手元の物の確認、人の顔の識別、運転などの日常生活に重要な活動に支障をきたすため、社会活動への影響が大きくなります。

